

令和元年度 第50回 「防火ポスターコンクール」 審査概評

審査員 小笠原 京子

1 はじめに

このコンクールでは、少年少女の防火意識を高め、一般県民の防火思想の普及啓発を図ることを目的として、ポスターの公募を小中学生を対象に行ってきました。今年度は、小学校5校中学校6校合わせて54点の応募がありました。中でも、秋田西中、仙北中、能代第一中等、力作を応募していただき、嬉しく思います。今回50回という大きな節目を迎えたことや、応募数の減少ということもあり、この事業は一つの区切りとして終了することになりましたが、防火を含めた防災教育の必要性、大切さを再認識していきたいものと思います。

2 全体講評

小学生の応募数は少なかったものの兄弟による作品が目を引きました。全体に火事の原因となる要因をしっかりと考えた素直な作品が多く、子どもらしい表現にあふれていました。中学生は訴求力のあるキャッチコピー、画面構成、丁寧な表現等、よく練られた作品が多く、表現の質の高さを感じました。従来は見られなかった電気調理器や電子タバコへの注意喚起等、時代の変化を感じさせられるとともに、子どもたちの持つ感性、力に希望を感じることができました。

【小学生の部】



■ 一 席 齊藤 瑛太 (秋田市立 御所野小学校 3年)

何と言っても二人の消防士が真剣な表情で消火活動している姿に引きつけられます。また火を擬人化したり、ヘリコプターや建物の中の人顔の表現など、丁寧で細やかな思いが伝わってくる作品です。背景もすっきりとうまくまとめられています。



■ 二 席 齊藤 隼太 (秋田市立 御所野小学校 1年)

ヘリコプターや消防自動車による救助活動が画面の中心にどんと描かれ、意図が明快な作品になりました。また空には雷神さんの顔も見え、雷鳴が聞こえるような怖さや雨を降らせて応援？するような面白い発想の組み合わせが魅力です。



■ 三 席 佐々木 綸 (大仙市立 高梨小学校 2年)

「火じだ！にげろ！」のキャッチコピーをそのまま表すごとく、愛犬を連れ、驚いて逃げる様子が表現されています。バックの暗い色調の中に火や髪の毛の黄色、赤、建物と、犬の色など、色数を抑さえた表現が画面を見やすくしています。女の子や犬のビックリした表情が火事の怖さにつながって効果をあげています。



■ 三 席 恩賀 那緒 (秋田市立 八橋小学校 3年)

ストーブの上の洗濯物、放火、タバコのポイ捨て、コンセント周囲のほこり等、いろいろな出火原因を考え、防止を呼びかけている作品です。画面が分断されている弱点もありますが、呼びかけの言葉を同じ色にする工夫や丁寧な着色で、子どもの思いが素直に伝わってくる作品です。



■ 三 席 山田 一心 (横手市立 十文字第一小学校 4年)

シンプルな表現です。キャッチコピーを大きく入れたことや背景を黄色一色とし、色数を限定した表現が明快な作品につながりました。これからは、中心となる図柄をどのように配置すればもっと効果が出るのか、画面構成を工夫するとよいと思います。



■ 一 席 鈴木 里 朋 (秋田市立 秋田西中学校 1年)

火災予防がテーマですが、優しくほっこりする雰囲気作品です。火事の怖さを視覚的に強調する従来の作品群の中で、みんなの願いを祈りながら注意を喚起する異色の表現をしています。大きなお地蔵さんを中心に拍子木を持ったかわいいお地蔵さんを二体配置した構成、顔の表情、彼岸花の配置等、かんでいないですが、見る人の心を引きつけます。



■ 二 席 長谷山 菜 映 (秋田市立 秋田西中学校 2年)

誰もが知っているウサギとカメの話とキャッチコピーをうまく組み合わせ、訴えている内容も分かりやすいものになっています。ウサギとカメの配置も練られ、着色やレタリングも丁寧で完成度の高い作品になりました。



■ 二 席 大 澤 彩 花 (大仙市立 仙北中学校 2年)

ざっくりとした炎のゆらぎ等、火を端的に擬人化し効果をあげている作品です。炎の顔の表情からは、タバコの火の不始末は困ったものだなあと嘆きながら、こんなにも大きな火災にもつながっていくんだよと言いたげな感じが伝わってきます。黒のバックもブラッシングで工夫しましたね。



■ 三 席 鈴木 竜 姫 (能代市立 能代第一中学校 1年)

ストーブの近くに衣類、火災の原因となる引火を端的に注意喚起する作品です。呼びかけの言葉を全部同じ大きさにするのではなく、引火の文字を大きく図柄のように強調することで、訴求力を高めています。衣類の形、袖口、質感等工夫したことが伝わってきます。



■ 三 席 石 川 莉 汐 (男鹿市立 男鹿南中学校 2年)

燃えさかる家を中心に三つの円の中に火事の原因を配置したまとまった構成の作品です。黒を背景とし、赤と対照的な青系統の色、黄色のレタリング等、グラディエーションも考慮しながら色数を整理することで、見やすい作品に仕上がっています。



■ 三 席 佐々木 菜 摘 (秋田市立 秋田西中学校 2年)

「後悔の涙では火は消せない」というキャッチコピーがストレートに心に響きます。調理台で焦げる鍋、女の子の泣いている姿。いずれも心のこもった丁寧な描写です。またムラのない着色やレタリングも見事で感心しました。中学生ながらその技術力に脱帽です。